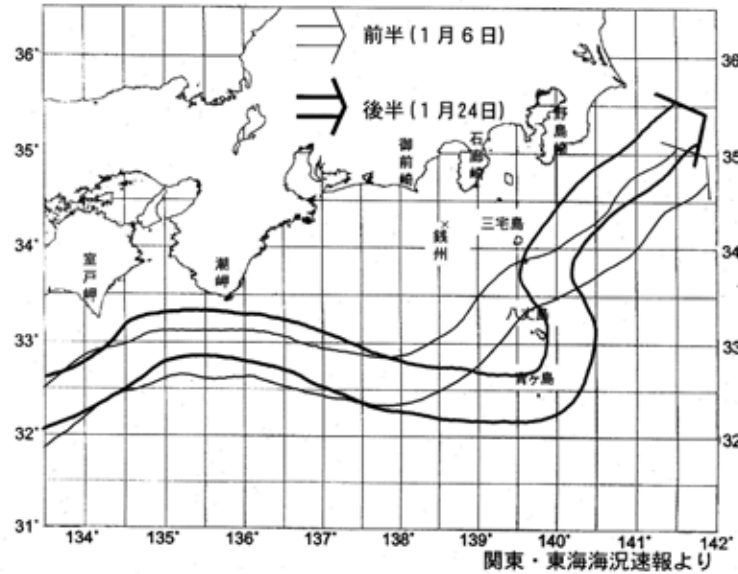


漁海況月報

平成 29 年 1 月 1 日

No. 1 ~1 月 31 日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



1 月定地水温の旬平均値 () (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	16.2	16.5	15.3	15.8	15.5	15.1
	0.9	0.7	0.1	0.2	-0.2	0.3
中旬	14.8	15.4	14.7	15.3	12.8	13.7
	-0.0	0.1	0.0	0.2	-2.2	-0.6
下旬	14.2	16.2	15.4	16.3	14.4	13.9
	-0.3	1.3	1.1	1.7	-0.2	-0.1
月	15.0	16.0	15.1	15.8	14.2	14.0
	0.2	0.7	0.4	0.7	-0.8	-0.3

* 地頭方の水温観測は終了しました。

[黒潮流路]

1 月上旬は B 型で、遠州灘沖 33°N を東南東に進み御前崎沖で北東に向かい三宅島の南を通過した。中旬も B 型で遠州灘沖 32.5°N から南東に進み伊豆半島沖で北上し三宅島付近を通過した。下旬は C 型に変わり、遠州灘沖 32.5°N を東南東に進み青ヶ島付近から北に向かい三宅島の南を通過した。

[県下沿岸域]

1 月上旬は、伊東、稲取で「やや高め」、下田、雲見、沼津、焼津で「平年並」であった。中旬は、沼津で「低め」、伊東、稲取、下田、雲見、で「平年並」、焼津で「やや低め」であった。下旬は、稲取、下田、雲見で「やや高め」、伊東、沼津、焼津で「平年並」であった。

[竿釣カツオ]

1 月の県内主要 5 港 (沼津、清水、焼津、小川、御前崎) における近海カツオの水揚げはなかった。1 月に水揚げがないのは平成 2 年以降では平成 26 年に次いで 2 回目となる。

竿釣り (近海+沿岸船) カツオ水揚量 (県内主要 5 港)

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	平均水揚量/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
29 年 1 月上旬	-	0	-	-
中旬	-	0	-	-
下旬	-	0	-	-
29 年 1 月計	-	0	-	-
28 年 1 月計	49	5	9.8	349
27 年 1 月計	47	2	23.5	434

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網 7 か統 (伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津) の水揚量は 124 トンで前年の同漁場の水揚量 (201 トン) の 62% であった。また、1 か統あたりの水揚量は、17.7 トンで前年 (28.7 トン) の 62%、平年 (昭和 57 ~ 平成 28 年の平均 35.3 トン) の 50% であった。水揚量の多い漁場は、北川漁場 (48.5 トン、さば類・マルソウダ・メアジ) 次いで川奈漁場 (24.2 トン、さば類・メアジ・カタクチイワシ) であった。

多獲された魚種の水揚量は以下 (表) の通りで、さば類は 72.3 トンで前年比 70%、平年比 1.5 倍であった。さば類のうち、ゴマサバは 65.7 トンで前年比 64%、平年比 1.4 倍と前年を下回ったが、マサバは 6.7 トンで前年比 6.1 倍、平年比 1.5 倍と前年、平年を上回る漁獲であった。マルソウダは 15.5 トンで前年比 1.5 倍、平年比 16 倍と平年を大きく上回る漁獲であった。メアジは 9.4 トンで前年比 70%、平年比 4.5 倍であった。スルメイカは 4.0 トンで前年比 12%、平年比 6% と前年、平年を大きく下回る極めて低調な漁獲であった。カタクチイワシは 3.1 トンで平年比 7% (前年同月は漁獲無し) と平年を大きく下回る低調な漁獲であった。

多獲された魚種の主な漁場は以下 (表) の通りで、さば類は北川漁場が 46% (33.3 トン)、川奈漁場が 20% (14.4 トン)、マルソウダは北川漁場が 51% (7.8 トン)、富戸漁場が 18% (2.7 トン)、メアジは北川漁場が 39% (3.6 トン)、川奈漁場が 28% (2.6 トン)、スルメイカは谷津漁場が 28% (1.1 トン)、北川漁場が 25% (1 トン)、カタクチイワシは川奈漁場が 64% (2.0 トン)、古網漁場が 31% (1.0 トン) を占めた。

(表) 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量 (トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	72.3	0.7	1.5	北川、川奈、古網
マルソウダ	15.5	1.5	16	北川、富戸、川奈
メアジ	9.4	0.7	4.5	北川、川奈、古網
スルメイカ	4.0	0.12	0.06	谷津、北川、川奈
カタクチイワシ	3.1	-	0.07	川奈、古網、富戸

[サバたもすくい・棒受網]

小川漁協所属の棒受網漁船の操業は17日に三本で始まった。また、一部の船がたもすくいによりゴマサバ主体の操業を行った。水揚量はマサバ5トン(前年同月比4%)、ゴマサバ359トン(前年同月比4.3倍)であり、1隻あたり水揚量はマサバ0.4トン(前年同月14.8トン)、ゴマサバ29.9トン(前年同月12.0トン)であった。1kgあたり平均単価はマサバ279円で前年同月(203円)、前月(183円)を上回り、ゴマサバは111円で前年同月(92円)、前月(93円)を上回った。

棒受網で漁獲されたマサバの体長組成は31cmにモードを持つ単峰型を示し、3、4歳魚主体であった。ゴマサバの体長組成は26cmと30cmにモードを持つ2峰型を示し、1歳魚と3歳魚主体であった。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
29年 1月上旬	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中旬	1	87	1	3	0.2	28.8	206	113	三本
下旬	4	272	4	9	0.4	30.2	289	110	三本
29年 1月計	5	359	5	12	0.4	29.9	279	111	三本
28年 1月計	104	84	3	7	14.8	12.0	203	92	三本
27年 1月計	29	403	6	19	1.5	21.2	409	120	三宅、三本

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

*表中の「-」は漁獲がなかったことを、「0」は漁獲が僅かにあったことを示す。

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が353kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が883kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は597kgと前年同期(328kg)の1.8倍、平年同期(過去5か年平均:279kg)の2.1倍と前年同期、平年同期を上回った。また、総水揚量は154.1トンで前年同期(119.4トン)の1.3倍、平年同期(54.2トン)の2.8倍と、前年同期と平年同期を上回った。平均単価は561円/kgと、前年同期(685円/kg)と平年同期(651円/kg)を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	3.3	2	4	827	377
舞 阪	41.0	2	47	871	365
福 田	36.6	2	46	795	434
御前崎	24.2	2	22	1,102	466
吉 田	33.0	4	79	418	835
静 岡	16.0	3	60	267	965
平成29年1月計	154.1	15	258	597	561
平成28年1月計	119.4	21	364	328	685
平成27年1月計	72.1	16	187	386	485

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年同期:過去5か年(平成24~28年)平均値

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、小川港では7kg(前年同期279.7トン、平年同期56.2トン)、沼津港は水揚げは無し(前年同期227.5トン、平年同期45.0トン)、静浦港は5kg(前年同期と平年同期の水揚げは無し)、伊東港は23.4トン(前年同期の水揚げは無し、平年同期23.5トン)であった。

カタクチイワシの水揚げは小川港、沼津港、静浦港および伊東港の全てで無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網8か統の水揚げは、マイワシが0.3トン、カタクチイワシが3.1kgであった。

*平年同期:過去5か年(平成24年~28年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

1月 10日	1月 11日	地先定線観測調査	(2日間)
1月 17日	~ 1月 18日	さば標識放流調査	(2日間)
1月 19日	~ 1月 20日	いわし・しらす類卵稚仔分布調査	(2日間)
1月 25日	~ 1月 27日	サクラエビ資源量調査	(3日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

